



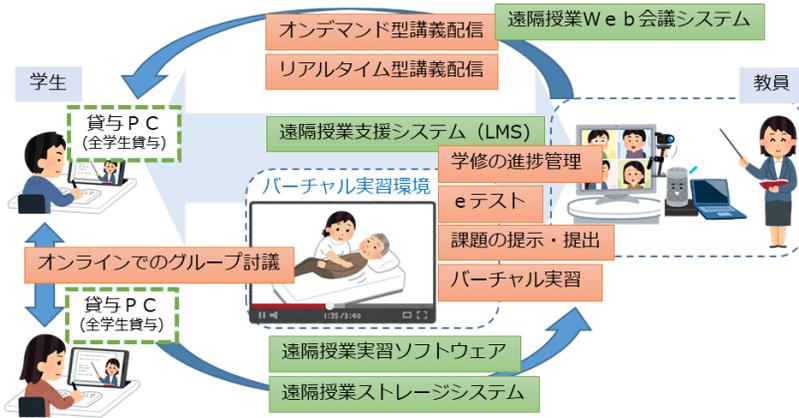
eテストやバーチャル実習などの ICT環境を整備 全学教務委員会

対面授業と遠隔授業の最適な組み合わせを実現するため、本学では「デジタルトランスフォーメーション計画」を立案し、遠隔授業支援システム(LMS)をはじめICT環境の整備を行いました。LMSでは、従来から行っている動画配信や課題提出などの機能はもちろん、eテストを行うことも可能になります。学部・学科により、前期セメスタの定期試験から試験的にLMSを運用しています。また、臨地実習を再開している学部・学科もありますが引き続きオンラインで臨地実習を代替ないし補充していくことも必要です。このため、バーチャルシミュレータなどを整備し、バーチャル実習環境の整備も行っています。このバーチャルシミュレータは、米国で開発されたシステムです。学生が画面上で測定や処置などを行うと、行った行為に応じて模擬患者の状態が変化します。このような新たな教材も活用し、臨地実習に匹敵する学修効果が高まるように努めております。

現在の対面授業レベル

- 【登校回数】週に2回まで
- 【登校時刻】2時限目以降
- 【密接を伴う演習】一部実施可

看護師や管理栄養士をはじめとする医療専門職の教育課程には、密接を避けられない演習・実験・実習等も含まれています。これらを含む授業についても感染拡大の状況を評価し、キャンパスごとに対面授業を実施できる回数や範囲を判断して参ります。新たな授業様式の確立にはまだ時間がかかりますが、ご理解の程よろしくお願いたします。



在宅看護学におけるオンライン実習 東が丘・立川看護学部 臨床看護学コース

「在宅看護学でオンライン実習に取り組みたい経緯を教えてください。」

佐藤准教授…感染拡大が広がる中で、当初は実習を延期する方針でした。しかし若年層が不顕性感染しているとの報道などから利用者の不安も強く、実習の受け入れは困難と判断される訪問看護事業所も相次ぎました。そこで臨地での実習を断念し、オンライン実習に切り替えることにしました。

「オンライン実習では、どのようなことを再現できますか。」

佐藤准教授…まずは行動目標を工夫し、オンラインでもできること、臨地でなければできないことを整理しました。その中で、「病院とは全く違う場」であることを理解できるようにしたいと考えました。

「オンラインで、病院とは違う場を見てもらうために、行った工夫を教えてください。」

訪問看護事業所に協力依頼し、利用者の了解を得た上で、看護師にウェアラブルカメラを持って利用者の自宅を撮影して来ていただきました。さらに利用者のデータをもらい、個人情報情報を全て消した形で学生に提供しました。実際には訪問していないけれども、訪問しているような視点で看護過程を展開するようにしました。架空の利用者ではリアリティが薄れるので、実在する利用者で考えてもらうことが大事だと考えます。

「学生の反応はいかがでしたか。」

佐藤准教授…最初は、オンライン実習といってもイメージしにくい学生が多かったですが、4年生というこ

後のレポートをみた限り、到達度に大きな差はありませんでした。やはり対面で行いたいと感じたのは、どのようなことでしょうか。

佐藤准教授…家の周囲の環境や、訪問看護ステーション内の様子を見ることも大事です。やはり生に勝るものはないので、状況が許せば見学の機会などを持てるということも思っています。

「オンライン実習だからこそ実現できたこともありましたか。」

佐藤准教授…今回ご協力いただいた利用者は小児です。入浴介助の様子も撮影させていただくことができました。臨地でも経験しにくい場面を多くの学生が学ぶことができました。zoomのブレイクアウトセッション機能を用いることで、その場で班分けすることが可能になりました。このため予定調和のような議論にはならず、より充実したグループ学習が実現しました。このような学生の前向きさが、オンライン実習が成功した最大の要因だと考えています。



佐藤潤准教授

デザリング利用者は契約プランの確認を

現在、NTTドコモ、au、ソフトバンクなどの通信事業者は学生向けに50GB/月までパケット追加費用を無償としています。

事業者によって無償提供期間が異なるため、スマートフォンのデザリング機能で接続している学生は、今月中に契約プランを確認することをオススメします。後期セメスタも対面授業と遠隔授業の組み合わせが見込まれますので、十分な通信容量を確保することを推奨します。